

件名	令和5年度 福井市障がい者自立支援協議会 第3回 居宅生活支援部会 議事録		
日時	令和5年11月4日（金）10:00～11:00	会場	福井市市役所別館14C
欠席者	長谷川氏（市社協）大角氏（相談支援事業所連絡会）		
傍聴者	4名：高田氏（市議） 山崎氏・三田村氏・関本氏 ：オンライン参加：中村氏		
会議次第	1. 開会 2. 協議事項 ① 障がい者の地域理解促進について 資料1 ② 障がい者福祉人材不足（福祉の仕事の魅力PR） 3. その他 5. 今年度の開催スケジュール（予定）について		
報告事項	ワーキングチームでの検討内容について報告 資料1 参照 【吉田氏】 ・今後ワーキングチームで集まって内容は精査していきたいと思う。 ・今後の作業についてとスケジュールについて説明 資料参照 【吉村会長】 ・研修と若い人への理解を深めていきたい。竹澤氏から永平寺町でのイベント紹介があったので行ってきたが、身体障がい者の方だけではなく、地域の方々も集まってのイベントだった。子供たちに自然と障がい者の方と触れ合うのは参加して楽しかった。 ・11月6日に民児協の会長会があり、地域移行・定着部会の山崎氏と研修の説明に行ってきた。今年度の各地区民児協の研修はほぼ終了しているので、来年度に向けてお願いした。この部会委員の丸山氏からは、12月20日に研修依頼があった。 ※資料1の確認→竹澤氏の名前が抜けていた。 【北川氏】 ・資料1の②の中学生はどこに働きかけるのか。 【吉村会長】 ・対象を中学生としたが、具体的などころまでは至っていない。次回のワーキングチームで検討する。 【北山氏】 ・ワーキングの中で、中学生や若者向けに各事業所が実施している地域促進事業に対しての行政の評価についても話があったと思うが。 【吉村会長】 ・行政の加算まではいかないが、ステッカー等で地域促進をやっている事を知ら		
意見等			

意見等

せたいし、認めても欲しいという話はあった。

【山越氏】

- ・私は越廼地区だが、地域の特養と合同避難訓練をしている。

【吉村会長】

- ・ワーキングチームでも避難訓練の話は出た。各事業所や市社協が核になっている。

【磯崎氏】

- ・部会としてイベントを定期的に継続して行けないか。

【黒田氏】

- ・スケジュールに12月～2月頃にワーキング活動と記載があるが、計画の見込みを教えて欲しい。

【吉村会長】

- ・丸山氏から12月20日にどうかと言われているので、ワーキングチームで内容は決めたい。丸山氏のからのご要望に応じたい。

【丸山氏】

- ・旭公民館で毎月定例会があるので、当日は10時から1時間程度お願いしたい。

【磯崎氏】

- ・誰が行くのか、内容とかを決めた方がいいのでは。

【丸山氏】

- ・障がい者の方はあまり外に出られない、どこにいるか分からないという問題もある。どういうふうに知ったらいいのか。どのように話したらいいのか、接したらいいのか。プライバシーもあるので、どこまで入っていいのかが問題点だと考えている。

【北山氏】

- ・丸山氏の地区が、どういう課題を具体的に抱えられているとかを聞くことによって、それに対して応えることができるのでは。

【黒田氏】

- ・福祉よろず相談の地区相談として、各民生委員の所に周知活動はしてきている。気がかりな方がいたら、障がい、病気やケガがあるなしに関係なく、年齢も関係なく、こちらに繋いでもらえば大丈夫。こちらから訪問に行ったり、話を聞いたり、繋いでもらった民生委員の方が、直接話が出来るといってもいい。

グループホームや施設から地域に出るケース、気がかりな人がすでに地域で生活しているケースがあるが、どこに繋げればいいのかの研修が出来るといいのでは。地区相談の資料があるのでそれを活用する事もできる。

意見等

【山越氏】

- ・身体障がい者の相談員もしているが、こちらからは結論は出せない。繋ぐだけで市役所に持って行けばいい。民生委員の団体からはいつも協力をしてもらっている。

【吉村会長】

- ・当事者の方がこうして欲しいという話も必要だが、北山氏に以前話した内容をしてもらい、質問があった時に対応できる形にしたい。それまでにワーキングを開催できるなら検討する。

【竹澤氏】

資料 1 ②中学生限定ではなかったのでは。

【吉村会長】

- ・まだ話し合いの途中だが限定ではない。

【障がい福祉課・竹内氏】

- ・研修の情報共有としてお伝えする。地域移行定着部会のワーキング部会が 11 月 14 日成和地区の民児協に行き、研修を開催することが決まっている。

【吉村会長】

- ・基幹より、相談員が聞き取った当事者の声について報告をしてもらう。

【坪田】 アンケート結果資料参照

- ・自立支援協議会では、当事者の声がなかなか反映されていない状況の中で、今後に向けて第一段階の調査である。「自立支援協議会を知っていますか」等を聞いており、最後に「障がい者当事者（家族含む）として、行政や地域、障がい福祉に関する事業所などに望むことはありますか？」と聞いたことへの回答がこの資料である。医療的ケア当事者の方は事情により、まだ出来ていない。

※当日配布のため資料を読み上げる。

【吉村会長】

- ・意見はないか。

【稲木氏】

- ・親が高齢化、親亡き後どうにかしないとイケない。住いの場所、グループホームとかになるが、そこで働く人材不足に直結してくる。

【石森氏】

- ・小さな事業所だけで GH を一つ作っても、足りるものではない。報酬的課題もある。

【出店氏】

- ・アンケート資料に書いてあることは、日頃思っている事が反映されている。会でも自宅から GH に入った例はある。親が GH に入って欲しいと思うが、本人

は入りたくない場合もあり、親が無理に進めるのではなく本人の気持ちを尊重して話し合っていく必要があると思う。

【宮永氏】

- ・子が、親が、両方が積極的な人の声がアンケートにあがっている。当事者が表に出ない、親も公表したくない。こんな事例が民生委員の人には問題だと思う。知的の親の会では、障がい福祉課や基幹に相談している。相談の方法の声掛けが出来る。「親の会に入ってください」と声掛けしても、若い人が入って来ないので声が聴けていないので、私たちも悩んでいる。

【石森氏】

- ・地域交流会をする。働く人、ボランティアの補充（ポスティング）続けることで求人に手をあげる人が出てきた。

【吉村会長】

- ・拠点で、それぞれ地域理解促進的な事をやっていると思う。居宅支援部会で何をやって行くのか。GHを作れても人がいない。人材不足が課題。

【磯崎氏】

- ・精神の方が外に繋がりにくい事が多い。居宅支援部会として何をするのか。人材不足は持続的にPRしていく等、居宅部会で出来る基礎の所を定着させていくところが大事だと思う。理解促進と人材不足というところを部会として何をしていくかをはっきり決めて、的を絞った方がいいと思う。

【竹澤氏】

- ・人材不足は長期的な問題で不可能なところもある。報酬的にも他の業種に流れていき、国際的にみれば日本から海外に人が流出している中で、人材不足の答えは見えにくい。現実的に少しでも人材不足を解消していくには、人員配置をどう見直していくか、緩和をどう求めていくか。部会から全体会に挙げて、全体部会から市に要望していく、傍聴に高田議員もいるので議会で協議して頂くことはどうか。福祉関係に働く人を増やしていかないといけないが、充足が難しいというのであれば、現在働いている人をどう有機的に活用していくかも一つの方法かと思う。こちらのほうが短期で出来るならば、力を入れて取り組んだらどうか。

【北山氏】

- ・アンケートを見てシンプルに思ったのは、表に出ない課題、表に出て資源がない課題。社会資源の協働が大切なのではないかと思う。情報共有していないと、このニーズはずっと課題になる。

【吉村会長】

- ・何かイベント的なものがないかと思う。人材不足のワーキングチームは出来ていないので作った方がいいのか。地域促進に入っていない方でワーキング

意見等

チームを作ってやってみるのはいかがでしょうか。

【磯崎氏】

- ・部会でやるのなら地域促進で動き始めているので、民児協に研修をやる時に、現実的に人材不足があることを PR するとか、小さなところでもするといいいのでは。

【吉村会長】

- ・11月の終わり頃にワーキングチームで検討する。

以上